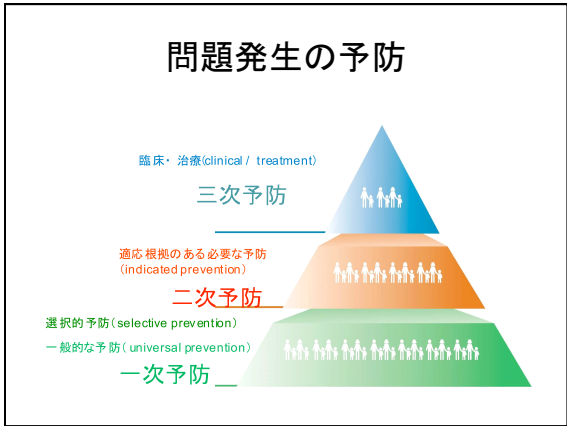


自主演習プロジェクト最終報告会 2009. 3

発達障害の子どものための学校支援
一適応に関する実態把握と教材・教具の開発を中心に一

教育学部 特別支援教育特別専攻科

中澤恭子・川野一郎・武田鉄郎



- 時間の見通し補助教材
- 身辺自立補助教材
- 学習補助教材
- 体験的学習教材
- 遊びを通じた学習教材

介入の仕方

(コーディネーターとしての提案)

- 対象児・・・小学2年生男児
- 特徴・・・多動で、見通しが持つことが困難なので離席してしまうことが多い。

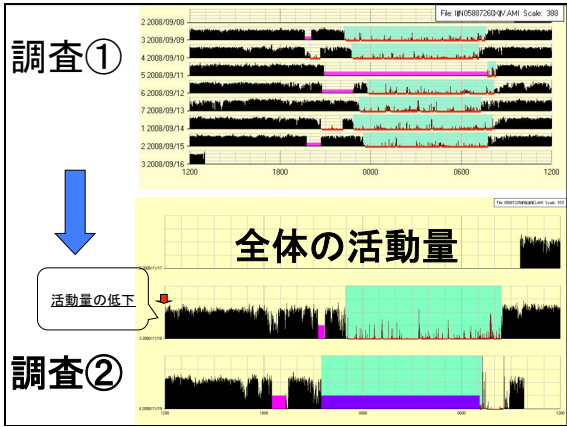
↓

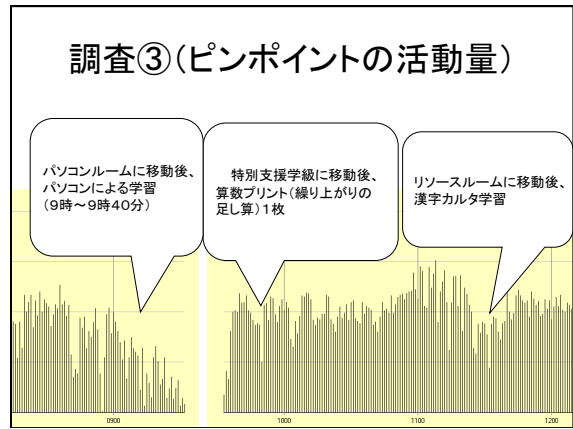
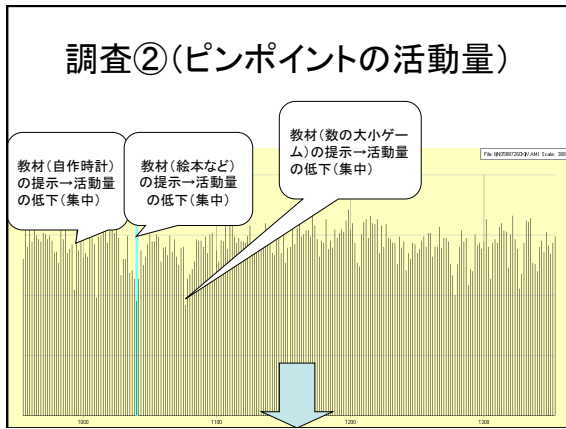
I 「遊びを通しての学習 情緒の安定 → 取り出し (リソースルーム) での支援」

II 「社会生活のルール理解 → カードや自作時計を用いた教材による支援」

* アクティグラフ (腕時計) による活動量の行動分析

時間の見通し補助教材





経過

校長、教頭、コーディネーター、担任にアクティグラフの分析結果を伝え、今後の対応を協議した。後日、協議した内容を保護者に伝えた(アクティグラフの分析結果)。保護者の困り感(睡眠・時刻)と合致したので、家庭でも自作時計を用いた支援を促すことができた。担任からも保護者へ、今後の支援についての方向性を伝えた。


考察

学習環境を整えることによって...

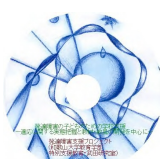
- ・教材の精査により、集中する時間(活動量の低下)が増えてきた。
- ・座って学習に取り組む時間が増えてきた。(離席することが少なくなった)
- ・医療機関と連携することで、保護者と本人及び担任に対して、よい環境調整をはかることができた。

「教材の工夫」も効果を生むことがわかった!

まとめ



冊子



CD-ROM版

ありがとうございました!